

●目次

はじめに—— 3

なぜ、一般教養科目に「看護学概論」か—— 9

「看護学」との遭遇／四大教育の名門で学んだ幸運／学友に見た看護学教育の威力

一般教養としての「看護学概論」

果たして、今どきの大学生は「看護」を認知したか—— 20

一般教養科目で開講、「実学」のススメ／メインディッシュを濃い目の味付けで

どんな人生が幸せか／「目」と「手」と「あたま」で吸収する／「看護学概論」が賞をもらってしまった

すべての人々に看護学のエッセンスを—— 53

他学部生への講義から得たもの／「看護学」をもっと、社会へ伝えたい

看護とは、看護学とは何か――。

神経生理学者から看護学者へと転向した著者は、それを「人生を豊かにしてくれるもの」と考えます。だとすれば、看護のエッセンスがぎっしりと詰まった「看護学概論」は、今後、誰もが当たり前前に携えておくべき「生きる知恵」といえるのではないのでしょうか。

本書では、総合大学の一般教養科目に「看護学概論」を位置づけ、医療・看護に馴染みのない学生たちをも惹き付けた講義の実際をご紹介します。「濃い目に味付け」したという授業の展開例は、看護関係者の参考書としてだけでなく、人々の「学び」について考えるうえで、魅力的な読みものになっています。

(編集部)

二四〇人の学生を引き付けた看護のエッセンス

第一回目の授業の日、挨拶もそこに、「静粛に。これからある動画を見てもらいます。あとで感想を書いてもらいますからね」とだけ伝えて、スタート。何しろ受講者は二四〇人である。目立った私語がなくても、教室内の騒音は空調のそれを上回る。それでも動画が始まると徐々に静かになり、九〇秒のCFはあっという間に終わった。最後には、ほぼ全員がスクリーンの方を向いている。想定どおりだ。そこで間髪を入れず「じゃあ、もう一回、流しますからね。今度は最初から見てくださいね」と念を押して、二回目を流す。もちろん、二回目は最初から静寂、(まばらに遅刻者が入室する以外は)皆見入っている……。二回目が終わって、筆者は学生たちにこう話しかける。

これはネット通販会社の有名なCFです。見たことがある人もいますよね。これを見て、何か感じることはありませんか？ もし感じたなら、どこに、そして何を感じたか、今日のミニレポートに書いてください。

私が皆さんにこのCFを見ていただいたのは、ここには「看護のエッセンス」が実にコンパクトに詰まっているからです。これを見て少しでも感動した人は、「人として大切なものをすでに備えている」と思います。もし「今いちピンとこなかった」という人がいたら、この授業が全部終わった後でぜひまた見てください。気づかなかったところに気づくかもしれませんから……。この若者と同じような「センサーと優しさ」をもつ人は、幸せだと思いませんか？

このCFを、複雑な看護学を直感的に伝えるためのツールとして使わせてもらった筆者のねらいが、おわかりいただけただろうか。確かに誰が見ても「人の優しさ」や「ノスタルジー」を感じる映像だろうが、実はこの中には「対人関係」「コミュニケーション技術」「観察力」「アセスメント技術」「状況判断能力」など、看護学体系を構成する重要な要素が含有されている。

CF紹介に設けた時間は一二〇分の授業時間の中で最初の数分だったにもかかわらず、ミニレポートには大半の学生がその感想を書いていた。「おばあちゃんに会いたくなってしまう」「ヘルメットの☆印を見たら泣けた」「おじいちゃんを大切にしたい」など、感想は、概して「こんなふうに、元気で、悔いのない毎日が過ごせたら幸せだと思う」というような内容だった。

さて、こうして幕を開けた教養教育科目「看護学概論―人と健康をつなぐ科学―」の第一回目は、他学部の学生たちの関心を少しでも看護学へ向けることができたようで、まずは努力が報われた結果となった。

「目」と「手」と「あたま」で吸収する

看護とは、健康とは、何だろうか？

第一回目の講義内容をもう少しご紹介しよう。オープニングに視聴した「バイクの若者とおばあちゃん」の感動も冷めやらぬ間に（あちこちで、まだ隣とささやき合う声……）、筆者は学生たちに

表3 毎回の授業構成

1) 1枚目のスライドで「当日のキーワード」を提示（第1回目の例）

第1回：2017年12月7日 本日のキーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・健康とは：health, well-being (physical, mental, social) ・対象理解：assessment (using multi-dimensional data base) ・ライフライン：drawing one's life line ・クリティカルシンキング：critical thinking

2) 授業のコースレシビ

	レシビ	取り決め	備考
1	フィードバック	ミニレポートの質問等へのコメント	次回、次々回の最初に
2	キーワード提示	3～5語以内	最初と最後のスライド
3～4	動画視聴	3分以内、1～3本	厳選、適宜部分提示
	手作業	書く、描く、話す、動く、測る	アクティブラーニング
5	ミニレポート (当日提出) (前々回まで受付)	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードのほか、授業で印象に残ったこと の感想を書く ・A6 (A4の4分の1サイズ) の指定用紙に 自由記載、オモテ面のみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・出席票を兼ねる ・部分点 ・過去分も1/2評価

宣誓する。

ようこそ、皆さん。「看護学」の世界へ。この講義を通して、皆さんに「看護学」が人生にとって大事な、面白い学問であることを、精一杯お伝えしたいと思います。

毎回、一枚目のスライドでは、コースレシビに則り、「本日のキーワード」として、いくつかの専門用語を列挙する(表3)。

皆さんは今、健康ですか？ 自分にとって健康とは何か、ちょっと真面目に考えてみましょう。健康について考えることは、この講義の目標でもありますからね。要するに、テストに出るってことです……。

畳みかけるように言っただけから、少し間を置く。そして学生たちを見渡して、次のスライドへ。すると、巨大な「健康とは」の文字の下に、英語と日本語で書かれたWHOの健康の定義が現れる。

Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease...

「単に病気でない」ということだけではない、人として満たされた人生を送っているかどうか、健康の目安になる、ということ、看護学専攻生（二年次）対象の専門科目「看護学原論」の講義と同じように、ゆつくりと、大きな声で強調する。well-beingという言葉は、理系の学生たちには初耳かもしれない。ここでも、少しだけ静寂が広がる。その反応の余韻は、週末に自宅で読むミニレポートで噛みしめることになる。初回講義の「健康とは」をミニレポートのキーワードに選択した学生は約三〇名、三番目に多かった。

「医学」と「看護学」の違い

さて、初回講義の次の目玉は「医学」と「看護学」の違い、つまり「医師」と「看護師」の根本的な違いを知ることである。実は、この違いについての説得力のある説明に筆者が出会ったのは、新設の看護大学で教鞭を取るようになってからだ。ちょうどその頃、アメリカのUCSF^{注4}か